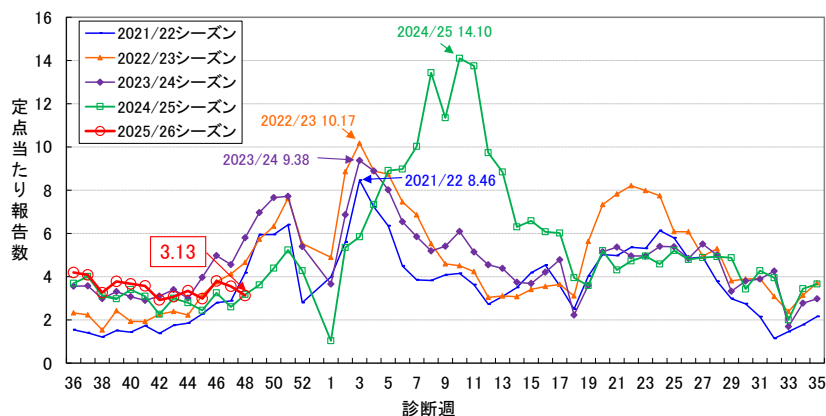
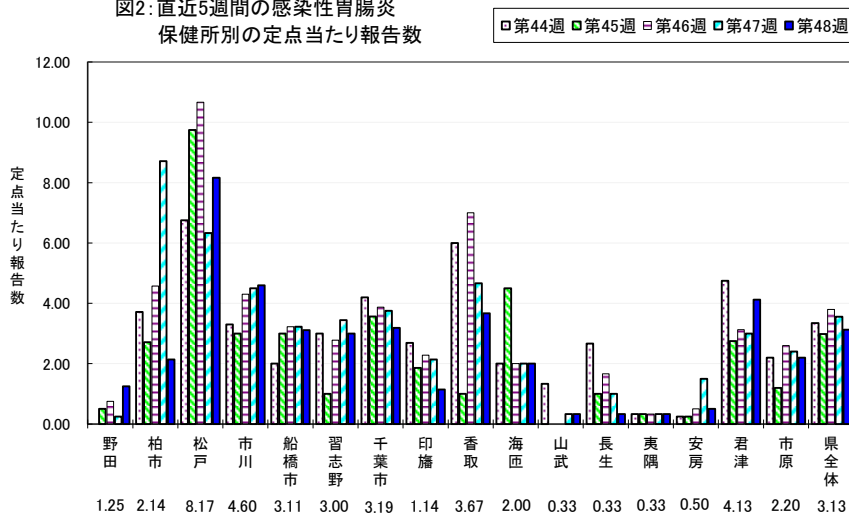


【今週の注目疾患】

《感染性胃腸炎》

2025 年第 48 週における県内の小児科定点医療機関からの定点当たり報告数は、3.13 (人) となった (図 1)。保健所管内別では、松戸 8.17 (人)、市川 4.60 (人)、君津 4.13 (人) が多かった (図 2)。感染性胃腸炎は通年で発生が見られるが、特に冬季に流行することから、引き続き注意が必要である。

図1: 千葉県の流行シーズン別感染性胃腸炎定点当たり報告数

図2: 直近5週間の感染性胃腸炎
保健所別の定点当たり報告数

感染性胃腸炎は、多種多様な病原体による嘔吐、下痢を主症状とする感染症である。起因病原体としては、細菌、寄生虫もあるが、ウイルスの占める割合が多く、ノロウイルス、サポウイルス、アストロウイルス、ロタウイルス、腸管アデノウイルスなどがみられる。その中でも、ノロウイルスによる感染性胃腸炎は特に冬季に流行することが知られている。

ノロウイルスの感染から発症までの潜伏期間は概ね 24 時間から 48 時間で、主な症状は吐き気・嘔吐、下痢、腹痛、発熱である。ノロウイルスは糞便及び嘔吐物に大量に排出される。症状消失後も数週間、糞便中へのウイルスの排出が続く事例が報告されている。乳幼児や高齢者等では、嘔吐、下痢によって脱水症状になることや、体力を消耗することがあるため、水分と栄養の補給を充分に行うことが重要である^{1,2)}。

感染を予防するためには、消毒用エタノールのみでは十分な効果を期待できないことを踏まえ、以下の 3 点に留意されたい²⁾。

- 食品類の十分な加熱
- 石けんと流水による手洗いの励行
調理や食事の提供を行う前、食事の前、トイレの後、また、嘔吐物・糞便等の処理やオムツ交換を行った後は、手袋をしている場合であっても、必ず行う。
- 嘔吐物・糞便等の迅速かつ適切な処理
①使い捨てのガウン（エプロン）、マスクと手袋を着用し、②飛散しないようペーパータオル等で静かにふき取り、③次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度約 200～1000ppm）等により汚染区域を消毒する。

■参考・引用

- 1)国立健康危機管理研究機構：IDWR 2022 年第 5 号＜注目すべき感染症＞ 感染性胃腸炎
<https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/intestinal-m/intestinal-idwrc/10991-idwrc-2205.html>
- 2)厚生労働省：ノロウイルスに関する Q&A
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

【Topics】

《年末年始に海外へ渡航される皆様へ》

海外においては、国内では見られない感染症が流行していることがあり、海外滞在中に感染する可能性があります。海外へ渡航する際には、事前に渡航先における感染症の流行状況、現地滞在中の注意点、海外渡航に際し推奨されている予防接種をご確認ください。

また、感染症には、潜伏期間（感染してから発症するまでの期間）が数日から 1 週間以上と長いものもあり、渡航中や帰国直後に症状がなくても、しばらくしてから具合が悪くなる場合があります。その場合は、医療機関に事前に電話連絡して海外渡航歴があることを伝えた上で受診し、渡航先、滞在期間、現地での飲食状況、渡航先での活動内容、動物との接触の有無、ワクチン接種歴等についてお伝えください^{1,2)}。

■参考・引用

- 1)厚生労働省：海外へ渡航される皆様へ
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kekkaaku-kansenshou18/index_00003.html
- 2)厚生労働省検疫所 FORTH：海外へ渡航される皆さまへ!
https://www.forth.go.jp/news/20220722_00001.html